



☆ディスプレイを楽しもう！

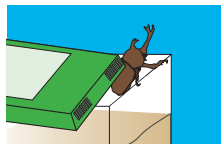
専用ディスプレイケースや天然素材を使用して、ジオラマ風にセッティングしても楽しい。



＜クリーンケースL使用＞

◆昆虫飼育時の注意

◆1999年、11月から、種類を限定して、外国産のかぶと虫・くわがた虫の輸入が出来るようになりました。国産の昆虫と飼育方法が大きく変わるものではありませんが、多少違った知識や注意点もあります。



放虫、逃亡



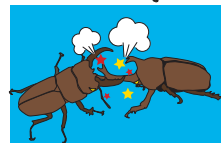
特に外国産の昆虫は、もともと日本には、生息していなかった生き物になります。野外へ、逃がしてしまった場合、各地で環境問題を引き起こし、日本の古来の生態系に悪影響を及ぼす可能性があります。絶対に逃がしたり、放したりしないようにしましょう。



ハサミや角



日本産のかぶと虫やくわがた虫でも、ハサミ（アゴ）や角、また足の爪には要注意！外国産になれば、サイズも力も倍増します。はさまれたりしたら、「いたい！」では済みません。手に持つ時などくれぐれも注意が必要です。



生き物の事故



1つの飼育ケースに複数と一緒に飼育すると、エサ場の取り合いなど、ケンカが絶えません。弱い生体が傷つけられ、死んでしまったりします。また、ケースのフタの隙間にくわがたのハサミ（アゴ）がはさまって取れなくなったり、日ごろからの注意と観察で生き物の事故を未然に防ぎましょう。

●お願い●

— 昆虫は生きています —

昆虫はオモチャではありません。その命が終わるまで、飼い主としての責任と愛情をもって飼育してください。

昆虫はなつく事もなく、人間の思い通りになるわけではありません。飼い主のわがままから途中で見放したり、世話を怠らないようにしましょう。その為にも昆虫の生態について飼い主がよく理解をしておくことが、とても大切です。

飼育用品は数多く販売されていますが、全てをカバー出来る物ではありません。生き物は予測不可能な行動をするときがあります。

自分がどの様に飼育したいのか、その用品が自分の飼っている昆虫に合っているか見極め、事故が起こる前に対応してあげるのも飼い主の責任です。

ペットショップや飼育書、図鑑などで自身の知識を深めることも必要です。



Small Animal Products

発売元：株式会社 三晃商会
〒562-0035 大阪府箕面市船場東2-3-54



飼い方ブックレット②

かぶと虫・くわがた虫を飼ってみよう！

夏の風物詩、昆虫！

「昆虫」ここでは、カブト虫とクワガタ虫について、彼らを飼育するには、何が必要で、最低限どんな事を守らなければいけないか？・・・を考えてみましょう。



SANKO <http://www.sanko-wild.com/>

Y12@

◆他のペットと違い、昆虫（かぶと虫・くわがた虫）は、幼虫の時期と成虫の時期とでは、形はもちろん、住んでいる場所や食べる物まで、大きく違ってきます。したがって、それぞれの段階によって、飼育方法も変わってきます。



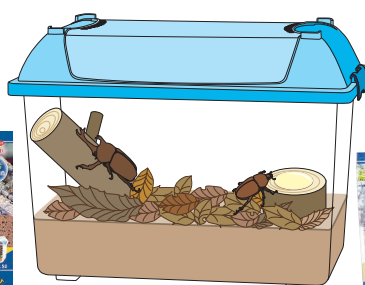
＜国産かぶと虫＞

☆成虫飼育



★昆虫達の足場となる、のぼり木などの自然木を。また転倒防止やマットの乾燥を防ぐ、枯れ葉や樹皮などをマットの上に敷き詰める

★昼間はマットの中へもぐり込んで体を休めたり、体温調整をする。又、体の表面は、硬いヨロイの様な物で覆われているが、体内は、ほとんど水分のため、保護のためにも大切になる。昆虫マットは、昆虫達の排泄物やエサ等で不衛生になりやすいので1～2週間位を目安に交換すると良い。ケースに約10cm位の深さになる様に敷く。水分は、マットは、手で軽く握り、固まる程度。



* クリーンケースを使用しての飼育例

★ブラケースで、大きさが縦約20cm×横30cm×高さ20cm以上の大き目のサイズで！

- ①フタがしっかり締まり昆虫が逃げ出さないケース
- ②小バエの侵入や臭い、汚れの漏れを防ぐケース



★専用の昆虫ゼリーや樹液を専用のお皿にセットして。複数飼育の場合は、エサ場も複数箇所準備。

★マットの水分補給に役立つ、保水ゼリーや保水ウォーター、ダニや臭いを抑制するダニよけ消臭剤など。



オスとメスの数

左記の大きさの容器に、オス1匹とメス2～3匹。オスを複数入れると、メスやエサ場の取り合いなどで、ケンカが絶えない。

ケースの置き場

直射日光の当たらない風通しの良い所。高い所は、温度が高くなるので、注意しましょう。



☆累代飼育



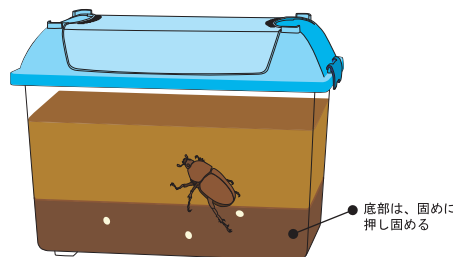
* 基本的には、マット内産卵



★7月～8月頃に産卵された卵は、約14日位で孵化します。卵は白く、初めは2mm位の大きさに、孵化が近づくと約4mm位にふくらみます。幼虫は初令・2令・3令（終令）と脱皮を繰り返して、10月頃には、親指位の大きな幼虫へと育ちます。

★約15cm位の深さになる様マットを敷く。使用するマットは、広葉樹ベースの発酵昆虫マット（またはクヌギマット）。マットは出来るだけ細かい粒子が良い。（保水性の高いマットの方が孵化率が上がる。）マットの水分は、手で軽くにぎり固まる程度。

★メスが死亡してから、約1～2週間位したらケースの底部を確認してみましょう。透き通ったケースの外側から、卵が見える場合があります。卵や幼虫が発見出来れば、少しづつマットを増やして行きましょう。



☆累代飼育

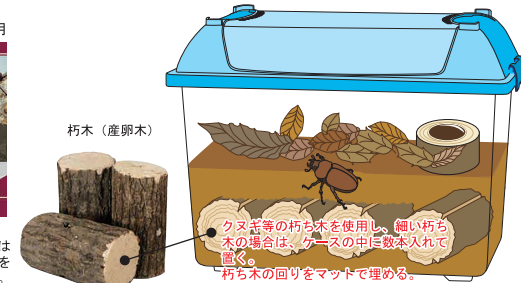


* 朽ち木の中やその周辺に産卵

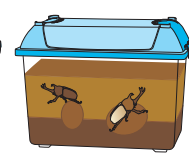
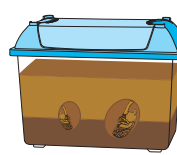
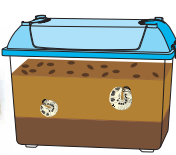
★クワガタ虫の産卵において、重要なのは、良質の朽ち木を使用する事！内芯が多かったり、表面が固すぎるとうまく産卵しない場合がある。朽ち木は、バケツ等に入れ、重しで浮き上がらない様に24時間位水に漬けてから、1日陰干ししてから、使用すると良い。



※ノコギリクワガタの育成は発酵が進んだ専用マットを使用すると良く育ちます。



☆幼虫飼育



★ケースの置き場所・・・直射日光の当たらない風通しの良い所に保管して下さい。急激な温度変化は、幼虫の死亡の原因となります。

★幼虫・・・孵化後約2～3週間位すると、幼虫は2令幼虫へと大きく育っていきます。この頃に一度、ケースの中身を新聞紙などに広げ、幼虫の数を確認しましょう。この時、幼虫の体の表面は非常に弱いので、丁寧にやって下さい。成虫飼育に使用した大きなケースであれば、5匹位が理想です。

★幼虫の成長・・・（前年8月～翌年6月頃）成虫の大きさは、幼虫時期で決まりますので、この時期に使用するマットとしては、発酵したマット（またはクヌギマット）を与えましょう。

★マットの水分について・・・成虫飼育でもふれた様に、軽く握ってかたま程度の水分量が理想です。

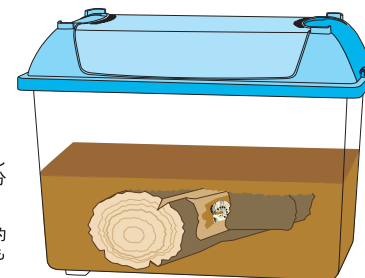
★サナギ（6～7月頃）・・・6月になると、蛹室を作り、3週間位で成虫へと羽化します。この時期がもっとも重要で、絶対にケースを動かしたりしない様にして下さい。この時期に、むやみに移動させない様に注意する事！（羽化不全の原因になります。）又、羽化しても体の内部は、まだまだ弱く、羽化後1週間位はそのままだ状態にしておきましょう。

☆幼虫飼育



* 幼虫は一匹飼いが基本

★朽木に産卵された卵は約2週間位で孵化します。孵化した幼虫は、朽木を食べながら成長していきます。9月頃になると、ケース内の朽木を一本一本ていねいに割り、幼虫を取り出し確認して下さい。幼虫はそれぞれ別々の容器に分けて飼育して下さい。クワガタ虫の幼虫は、縄張り意識が強く、一つのケース内で複数飼育すると、最終的にほとんどが一匹だけしか残らない場合もあります。



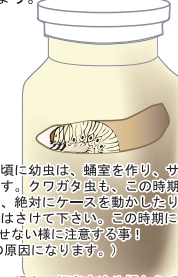
① ケース飼育の場合

朽ち木を使用し、細い朽ち木の場合は、ケースの中に数本入れて置く。朽ち木の湿度を保持する為、回りをマットで包む様に埋める。（通常の昆虫マットでも可！）

②

菌糸ビン飼育の場合

黒くなったのは幼虫のフン。容器内のマットが8割以上黒くなってきたら新しいマット（菌糸ビン）に交換しましょう。



★翌年の5月頃に幼虫は、蛹室を作り、サナギへと孵化します。クワガタ虫も、この時期がもっとも重要で、絶対にケースを動かしたり、急激な温度変化はさせて下さい。この時期に、むやみに移動させない様に注意する事！（羽化不全の原因になります。）

★クワガタ虫の場合、飼育方法や蛹から成虫へなる期間は、種類や環境によって異なります。専門のショップや専門書等で必ず確認して下さい。